

第 4 回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要点

日時：平成 29 年 2 月 14 日（火）18：00～20：00

場所：日野市役所 505 会議室

土地利用の変遷から検討される日野市の課題について

・自然の質の変化について

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図からでは自然の質の変化は読み取れない。 ・昭和 30 年前後から日本全国で人と自然のかかわりは大きく変わり、自然の質が変化した。自然の質の変化から考えられる課題についても言及したい。
対応方針	自然の質の変化に関連する課題は、自然環境調査から読み取れるように検討を行った（資料 5P21-36）。

・淡水区試験場

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・淡水区試験場が日野市にあったことは特記すべきである。 ・多摩川と浅川に挟まれて、日野市は水産研究に適した場所だったと考えられる。そこに試験場があったという情報は大切である。
対応方針	土地利用の変遷を示す資料中に、淡水区試験場の情報を追記した（資料 5P15）。

理念・施策体系の検討

・基本理念の検討

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・2 案の方が中身をイメージしやすい。 ・2 案について、「人と“多様な”生きもの」とすれば地域戦略としての意味合いが明確になる。 ・短い方が理念として適切である。 ・「魅力ある」というフレーズは不要である。 ・「日野」という単語も不要である。
対応方針	議論をふまえ、「水とみどりを継承し、人と多様な生きものが共に暮らせるまち」を基本理念とした（資料 5P38）。

・ 施策体系の構成

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策が多いと感じる。シンプルに項目を絞って取り組んでもよいのでは。 ・ 優先順位をつけることも重要である。 ・ 生物多様性の観点から重要な施策を選択しなければいけない。ワークショップで得られた意見を網羅すると現在の施策体系となってしまうが、施策ではなぜ生物多様性にとって必要なのかを示す必要がある。 ・ 統合できる施策は統合し、全体の数を減らしたい。 ・ 施策の中身で幅のある考え方ができるように検討する。 ・ 一つの施策に多くの関係者が含まれることを示す書き方にしないと、同じような内容の施策が出てくることになる。
対応方針	施策体系は、明瞭でシンプルな構成となるように再検討を行った資料 4。

・ 施策体系の内容について

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策には様々なレベルの言葉が含まれている。「7-6」の施策は、もう一段階上（目標）の位置づけでもよい。 ・ 民有緑地の公有化、という視点は施策から抜けている。民有緑地の寄付は日野市でも受け付けている。 ・ 目標 9 は、生きもののいる全ての環境を対象として欲しい。河川は国の管理となるため、通常は立ち入ることができない。しかし、ボランティアで生きもの調査が実施できれば、河川の生きものの状況を把握し、保全を検討することができる。そのため、「ボランティアによる生きもの調査」という施策を検討していただきたい。 ・ 目標 9 は基本方針「人と自然のかかわりをつくる」に含める内容ではないか。 ・ 目標 10 は施策の段階で対象が制限されている。河川以外の外来種に対する施策も必要である。また、外来種の情報を市民から集める取組みも検討可能である。 ・ 外来種に関しては、国内外来種による遺伝子浸透の問題もある。飼っている生きものを放さないための啓発も必要である。 ・ 教育の場は学校だけでなく、水辺の楽校等での活動も考えられる。「環境教育」ではなく、「環境学習」とすると考え方が広がるのではないか。 ・ 水田も大切な土地であるので、水田に関する施策もあればよいのではないか。 ・ 日野市には環境団体がたくさんあるので、そこを盛り立てて、新しい参加者を増やす視点も必要である。
対応方針	いただいたご意見を基に、施策体系の内容を再整理した資料 4。